市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1	護佐丸歴史資料図書館の整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ウ 文化活動を支える基盤の形成
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成２４～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容

沖縄や中城村の歴史や文化、世界遺産等について村民等が学ぶ場所として、また、村内外に広く知らしめる情報発信拠点として、護佐丸歴史資料図書館の建設を行う。なお、当該施設は、災害時に地域住民等の身の安全を確保するため、「防災タワー」を兼ねた複合施設とする。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算の状況	(a)当初予算額	116,227	－	105,119		
	(b)予算現額	116,741	－	88,888		
	(c)増減額(b-a)	514	－	▲ 16,231		
	(d)繰越額	－	105,042	－		
	A．計(b+d)	116,741	105,042	88,888		
B．執行済額		10,472	105,034	88,812		
うち交付金充当額		8,377	84,027	71,049		
次年度繰越額		105,042				
執行率（%）(B/A)		9.0%	100.0%	99.9%		

予算の状況の説明：・実施設計委託業務について入札残が発生したため16,231千円の減額補正を行ったが、計画的な予算執行に努め、事業を遂行した。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
護佐丸歴史資料図書館の実施設計の実施	目　標	(-)	(実施設計の実施)	( )	( )
	実　績	基本計画の策定 建設予定地の購入等	実施設計の実施		
	目　標	( )	( )	( )	( )
	実　績				

達成状況説明：・計画通り、護佐丸歴史資料図書館の施設本体(鉄筋コンクリート製3階建て延べ床面積3,062m²)及び外構(3,475m²)の実施設計を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
護佐丸歴史資料図書館の実施設計の実施	目　標	(-)	(-)	(実施設計の実施)	( )	(-)
	実　績		基本計画の策定 建設予定地の購入等	実施設計の策定		
【参考指標】	目　標	( )	( )	( )	( )	( )
	実　績					

進捗状況説明：・平成26年からの建設工事着工に向け、計画通り実施できた。

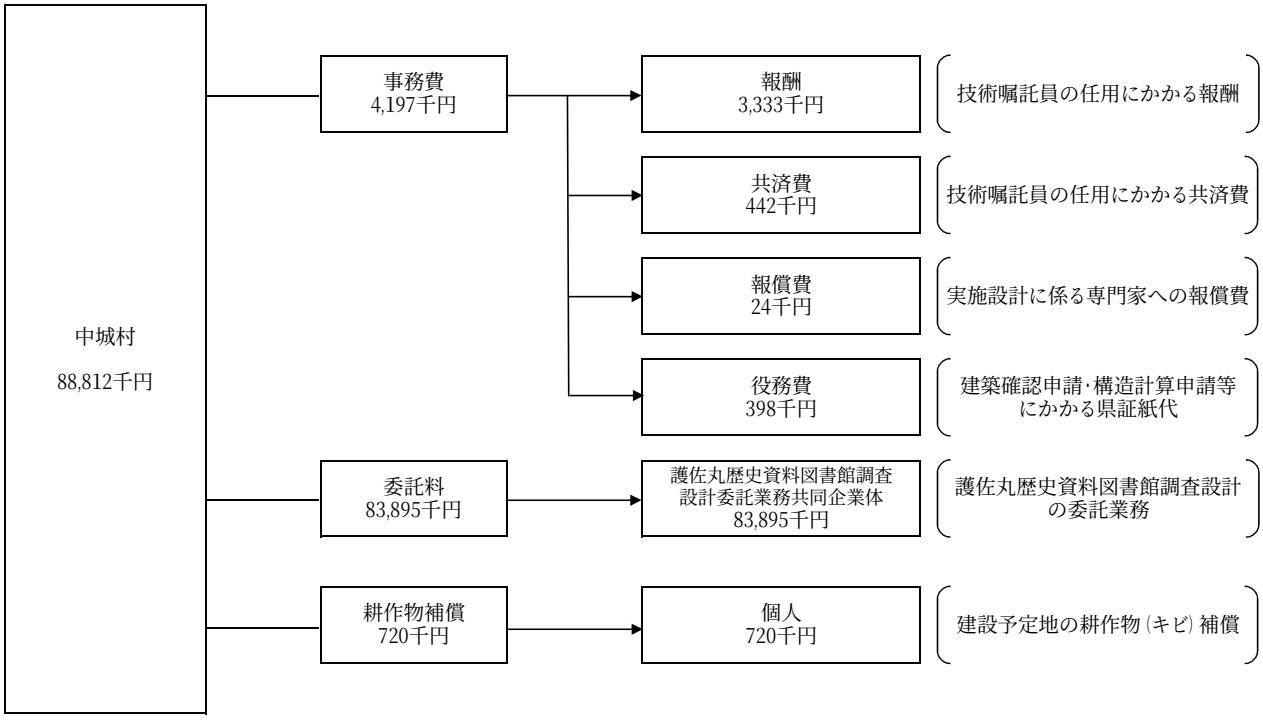
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・実施設計に当たっては、事前に周辺市町村の類例機能を持った施設を視察し、運営している職員から聞き取りを実施するなど、その成果を実施設計に反映することができたことで比較的円滑に作業を進めることができた。しかし、当該施設の設計に合わせた、内部の細かい家具・備品等の配置に関しては、学芸員・図書館司書等がおらず、配置案の決定に手間取ってしまった。	・平成26年度より当該施設の建設工事が開始するため、当該施設の機能を最大限引き出すための体制づくりを強化し、現場経験のある学芸員や図書館司書の配置について検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・現場経験のある学芸員や図書館司書の配置について検討し、その人材確保につとめることで、当該施設の機能を最大限引き出せる体制を整備する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
88,812	88,812	71,049	17,763	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・実施設計委託は指名競争入札の落札者業者と契約を締結した。耕作物の補償に関しては、建設予定地内でキビ耕作を行っていた個人（地主とは別人）に対しては、沖縄県のキビ補償基準単価に基づいた補償を行った。その他の事務費に関しても当該事業に関連するものであり適正に執行した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2	災害対策避難路整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成２４～２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－(2)
事業内容	村民の「安心・安全」な生活環境を確保するため、低海抜地域の学校や既存集落の台風や津波等対策として災害時の緊急避難路の整備築造工事を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算の状況	(a)当初予算額	25,200	－	31,947		
	(b)予算現額	22,512	－	23,889		
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,688	－	▲ 8,058		
	(d)繰越額	－	11,807	－		
	A．計(b+d)	22,512	11,807	23,889		
B．執行済額		10,705	11,807	23,889		
うち交付金充当額		8,564	9,445	19,111		
次年度繰越額		11,807				
執行率（%）(B/A)		47.6%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・8,058千円減額補正しているが、現況の地形を利用することで幅員の見直しを図り、当初計画よりも整備工事に係る経費が減額となったためであり、当初計画していた事業内容は全て実施し、計画的な予算執行に努め業務を遂行した。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	27年度	28年度
避難路の測量及び実施設計の実施	目　標	（測量及び実施設計の実施）	（測量及び実施設計の実施）	（　）	（　）
	実　績	測量及び実施設計の実施	測量及び実施設計の実施		
避難路整備築造工事の着手	目　標	（工事の着手）	（工事の着手）	（　）	（　）
	実　績	工事の着手、完了	工事の着手、完了		
達成状況説明	・台風や津波対策として災害時の緊急避難路の整備工事を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
避難路の測量及び実施設計の実施	目　標	（-）	（測量及び実施設計の実施）	（測量及び実施設計の実施）	（　）	（-）
	実　績		測量及び実施設計の実施(三箇所)	測量及び実施設計の実施(一箇所)		
避難路整備築造工事の着手	目　標	（-）	（工事の着手）	（工事の着手）	（　）	（-）
	実　績		工事の着手、完了(二箇所)	工事の着手、完了(二箇所)		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	・台風や津波対策として災害時の緊急避難路ができた。 平成２４年度施工箇所：屋宜（1箇所）　延長＝２００ｍ　、　津覇（1箇所）　延長＝１６０ｍ 平成２５年度施工箇所：津覇（1箇所）　延長＝１５８ｍ　、　久場（1箇所）　延長＝１３０ｍ					

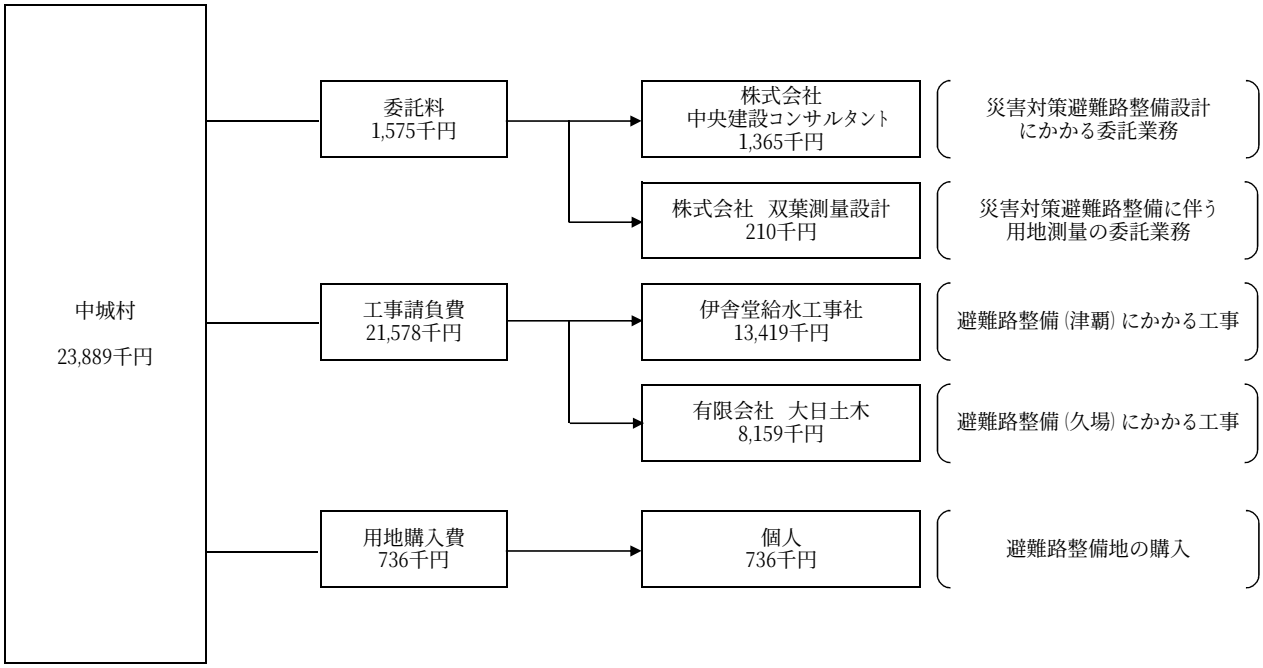
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・避難先であるゴルフ場との協定書の記者会見や、広報等で周知したが、実際に災害が起きた場合、スムーズに避難できるよう避難訓練をする必要がある。	・災害を想定した訓練の必要性を呼びかける。

今後の取り組み方針

・自治会や学校関係者等と、連携し定期的な避難訓練をするよう努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
23,889	23,889	19,111	4,778	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、指名競争入札により実績、知識等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考えている。 ・費目・使途については事業目的達成の観点からも必要であり、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	中城城跡ライトアップ事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	企業立地・観光推進課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	風光明媚な世界遺産「中城城跡」を観光振興の目玉として更に推進するため、城跡のライトアップを行い、普段日中しか行えない中城城跡の観光を光の演出により日没後も観覧できる観光メニューを提供するとともに集客増を目指す。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	40,000				
	(b)予算現額	38,731				
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,269				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	38,731				
B. 執行済額		38,334				
うち交付金充当額		30,667				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		99.0%				
予算の状況の説明		･中城城跡ライトアップに要す照明機器の機種選定に想定以上の日数を要し、さらに機能試験実施後に決定した照明機器について、受注生産のため納品に時間を要す見込みであることや、文化庁へ現状変更申請の許可を得るのに3カ月程度の時間を要すことが判明したため、今年度はライトアップ工事については実施設計のみとしプロジェクションマッピングイベントの実施をメインとする計画へ変更としたことにより21,269千円減額補正した。 ･不要額については入札残によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
ライトアップ設備の基本計画の策定(デザイン設計)	目　標	（設計書作成）	（　）	（　）	（　）
	実　績	設計書作成			
ライトアップ設置工事 ライトアップ事業の開催	目　標	（ライトアップ事業の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	未実施			
プロジェクションマッピングイベントの実施	目　標	（イベントの実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	イベントの実施			
達成状況説明		･当初計画通り、ライトアップ設備の基本計画策定を実施した。世界文化遺産である中城城跡をより魅力的に演出するための照明機器選定に想定以上に日数を要し、ライトアップ工事を次年度以降実施予定として事業計画変更を行ったため、ライトアップ事業については未実施となった。同時にプロジェクションマッピングイベント実施については追加事業として計画変更したため、正しい目標値にて事業を実施できた。			

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(28年度)
中城城跡への来場者数2,000人(ライトアップ事業期間)	目　標	（　）	（2,000人）	（　）	（　）	（ - ）
	実　績		0人			
プロジェクションマッピング開催による中城城跡来場者数(12/21～22、計2日間)	目　標	（　）	（3,000人）	（　）	（　）	（ - ）
	実　績		5,352人			
【参考指標】 中城城跡　来場者数(年間)	目　標	（89,360）	（　）	（　）	（　）	（150,000人）
	実　績		119,228人			
進捗状況説明		･中城城跡ライトアップを実施するための設計書を作成した。ライトアップ工事については次年度以降実施予定である。 ･プロジェクションマッピングを実施するための環境を整備し、プロジェクションマッピングイベントを開催した。また、プロジェクションマッピング映像の放映と同時に組踊りの演出を行うなど、中城村独自のイベントを実施し、イベント開催時の来場者数は目標値を大きく上回る結果となった。				

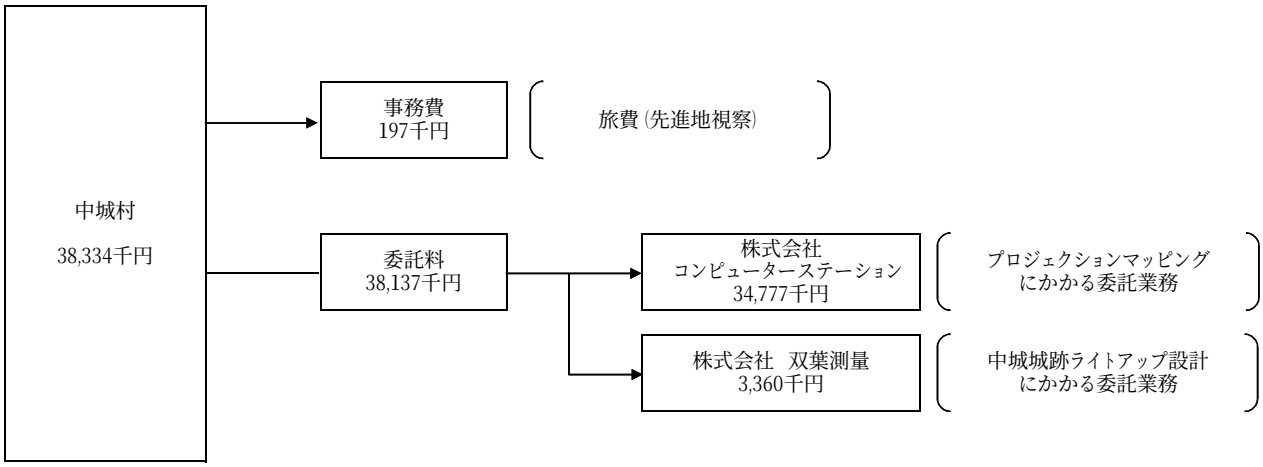
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・世界遺産ということもあり、景観を損ななわないような内容のライトアップの設計を心掛けた。 ・プロジェクションマッピングは、世界遺産での開催と規模の大きさ、実際の演者と映像がコラボするという話題性から予想よりも反響が大きく、来場者数も目標を超えた。 以上のことより、事業実施について特に問題はないと考える。	・プロジェクションマッピングイベント開催時の来場者数は目標値を大きく上回り、事業実施については特に問題はないと考える。 ・プロジェクションマッピングとライトアップをうまく融合させることで、さらなる来場者の増が期待でき、また、プロジェクションマッピングの内容や開催方法を工夫することで、夜の観光メニューの定番を目指す。

今後の取り組み方針

・光のイベントだけに、限られた時間内でいかに集客することが課題である。そのため、長期間開催できる内容のイベントを企画していく。
・本年度の実績を重視し、平成26年度より「プロジェクションマッピング事業」として事業名を変更し更なる展開を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
38,334	38,334	30,667	7,667	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・設計業務は、指名競争入札により実施しているため妥当であると考えている。 ・プロジェクションマッピング業務はプロポーザル方式により企業組織、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-④	観光客誘客促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立
担当部課名	企業立地・観光推進課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	本村や沖縄県の観光客誘客促進のため、本県のサッカーチームの県外試合の際に、試合前やハーフタイムに地域のキャラクターごさまる等を活用して本村･沖縄県の観光PR活動やキャンプ誘致活動を行うことで、観光客誘客促進を図る。また、サッカー教室など地域でのイベント開催を通して、地域のスポーツ振興を図る。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	8,500				
	(b)予算現額	6,835				
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,665				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	6,835				
B. 執行済額		6,230				
うち交付金充当額		4,983				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		91.1%				
予算の状況の説明		･計画的、効率的な誘致活動が功を奏し早期にキャンプ誘致に成功したため、当初計画よりも旅費を減額補正した。 ･不用額については需用費等の執行残等によるものであり、計画的な予算執行に努めた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
観光PR活動の実施	目　標	(観光PR活動の実施)	( )	( )	( )
	実　績	観光PR活動の実施			
キャンプ誘致活動	目　標	(キャンプ誘致活動の実施)	( )	( )	( )
	実　績	キャンプ誘致活動の実施			
特産品開発	目　標	(特産品開発の実施)	( )	( )	( )
	実　績	未実施			

達成状況説明
･本村の魅力を県外にPRするため、FC琉球の公式戦において観光PRイベントを実施し世界遺産中城城跡をはじめ村のPRを行った。
･トップセールス等によるキャンプ誘致活動を実施し、Jクラブを訪問した。1月及び2月のサッカーキャンプ誘致(2チーム)に成功した。
･観光客誘客促進を図る中で、目標達成のスキーム(キャンプ誘致活動、県外での村PR活動)を実施するためのツールの1つとして特産品開発を当初計画していたが、費用対効果を再検討した結果、既存の特産品で充分に成果を得ることができると判断したため、未実施となった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
観光PRイベントの開催	目　標	(-)	(2回)	( )	( )	(-)
	実　績		2回			
キャンプ誘致活動	目　標	( )	(5回)	( )	( )	( )
	実　績		6回			
特産品の開発	目　標	( )	(1～2種類)	( )	( )	( )
	実　績					
【参考指標】	目　標	( )	( )	( )	( )	( )
	実　績					

進捗状況説明
･本村の魅力を県外へPRするため、FC琉球の公式戦において観光PRイベントを実施し、多くの方々に村のPRができた。
･トップセールス等の実施により、Jクラブのキャンプ誘致(2チーム)に成功し、キャンプ中のトレーニングマッチには約4,700人の見学者が訪れ、商工会会員や農産物の朝市を同時に開催することにより、多くの方に村のPRを図ることが出来た。
･観光客誘客促進を図る中で、目標達成のスキーム(キャンプ誘致活動、県外での村PR活動)を実施するためのツールの1つとして特産品開発を当初計画していたが、費用対効果を再検討した結果、既存の特産品で充分に成果を得ることができると判断したため、未実施となった。

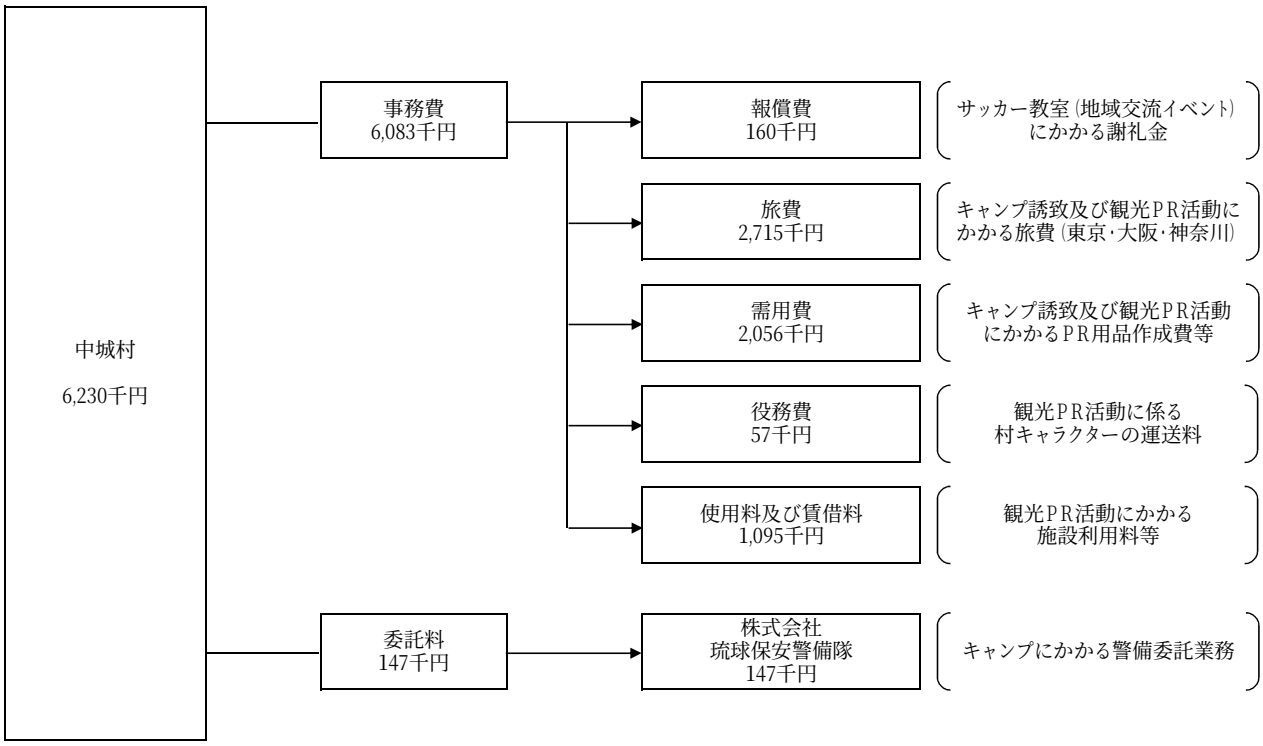
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光ＰＲ活動では村のキャラクター護佐丸や特産品を活用しＰＲ活動を行ったが、知名度の低さを感じた。知名度を向上させるため、様々なＰＲ方法を検討する必要がある。 ・トップセールス等によりサッカーキャンプ誘致活動に成功し、キャンプ実施により多くの見学者がございまる陸上競技場に訪れた。チラシやパンフレットの配布、出店等により多くの方に村のＰＲをすることができた。	・中城村のより効果的なＰＲ方法の検討が必要である。 ・キャンプ誘致の継続的な活動が必要である。 ・商工会や農産物の出店を促進する必要がある。

今後の取り組み方針

・キャンプ実施により多くの方が中城村に訪れ村のＰＲをすることができたので、今後も継続してＪクラブによるサッカーキャンプの誘致に努める。
・中城村の知名度がまだまだ低いので、村を挙げてキャンプを歓迎し多くの話題をメディアに提供し露出することにより、知名度の向上を図る。
・中城村のより効果的なＰＲのため、旅行関連業者と連携してサッカーキャンプを活用した観光客誘客を検討する。
・商工会や農産物の出店の促進を図り、村産品をＰＲする機会を増やす。
・平成26年度より事業名を「プロサッカーキャンプ支援事業」と変更し、今後も継続してプロサッカーチームのキャンプを誘致し、支援の充実を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,230	6,230	4,983	1,247	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は警備に関する実績を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考えている。 ・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑤	中城護佐丸まつり事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－（２）－ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立
担当部課名	企画課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）

事業内容

本村観光地の目玉である、世界遺産「中城城跡」にて、観光客の誘客とともに村民意識の高揚と親睦による地域活性化及び商工･観光振興の観点からも伝統と文化に根差した観光誘客イベントとして「中城護佐丸まつり」を開催する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	8,000				
	(b)予算現額	7,746				
	(c)増減額(b-a)	▲ 254				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	7,746				
B. 執行済額		7,746				
うち交付金充当額		6,196				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：・事業計画どおり執行を行った。事業完了後の精算の際に減額となったことから、254千円減額補正した。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
中城護佐丸まつりイベント開催	目　標	（10月26日、27日まつり開催）	（　）	（　）	（　）
	実　績	10月26日、27日まつり開催			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・「地域の伝統芸能演舞」、「村出身アーティストによるコンサート」、「歴史の道ウォーキング」、「中城城跡遺跡発掘体験」など村民が力を合わせて、中城村の魅力や個性を高めるイベントを開催した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(22年度)	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
まつり会場来場者数	目　標	（6,133人）	（8,000人）	（　）	（　）	（-）
	実　績		10,352人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・事業実施によりまつり会場来場者数は1日目3，367人、2日目6，985人(計10，352人)と、目標値より約29．4%上回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・まつりの中で様々なイベントを展開したことにより、まつり会場来場者数は目標値を大きく上回ることができたが、観光業界等への広報が遅れた為、観光客の来場者が少なかったことが課題である。	・まつり開催の前年度から観光業界等へ、まつり開催時期などの情報を提供していくことが必要である。

今後の取り組み方針

・観光業界やメディアに早くから情報を提供することで、観光客が旅程に組み込みやすいようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,746	7,746	6,196	1,550	

中城村 7,746千円 → 中城村護佐丸まつり実行委員会補助金 7,746千円

- 報償費 500千円（まつり出演者謝礼金）
- 需用費 144千円（のぼり等消耗品）
- 委託料 7,102千円

㈱日本広告	3,200千円	【イベント制作】
㈲サウスエリア	1,500千円	【花火演出】
㈱琉球保安警備隊	679千円	【会場警備】
㈲津城電気工事	600千円	【電気設備関係】
㈱沖縄仮設	535千円	【仮設舞台設営】
㈲カリー観光	126千円	【シャトルバス運行】
中部観光バス㈱	195千円	【シャトルバス運行】
㈱小録運輸	167千円	【シャトルバス運行】
㈲石原設備	100千円	【仮設水道設置】

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・ステージプロデュース委託事業は、プロポーザルを実施し、総合評価方式により選定したため、妥当であると考える。 ・その他委託事業については、見積入札を行い選定しており妥当であったと考える。 ・経費の支出については、事業目的に合致しており、適正であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑥	村HP多言語化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－イ 市場特性に対応した誘客活動の展開
担当部課名	企画課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	本村と歴史的、文化的に関連が深い国や地域との沖縄振興に資する交流関係を広げるため、また、観光振興のための観光情報も含め、外国人向けに本村ホームページを多言語化して情報発信を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	12,613				
	(b)予算現額	4,420				
	(c)増減額(b-a)	▲ 8,193				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	4,420				
B. 執行済額		4,377				
うち交付金充当額		3,501				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		99.0%				
予算の状況の説明		・当初予定していた観光地へのWiFi環境構築について、庁内ネットワークを利用した計画であったが、村セキュリティポリシーとの整合性がとれないため、事業内容見直しにより、WiFi環境構築工事に係る経費を減額補正した。 ・不要額は入札残によるものであり、事業計画どおり執行を行った。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
村ホームページの多言語化を図る	目　標	（ホームページの多言語化）	（　）	（　）	（　）
	実　績	ホームページの多言語化			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・村ホームページを多言語化して、情報発信を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(22年度)	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
月平均アクセス数 ※アクセス数とはPV数を表しています	目　標	（約3,000アクセス）	（3,500アクセス）	（　）	（　）	（ - ）
	実　績		9,776アクセス			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・事業実施によりホームページ閲覧者数は増加した。
中城村ホームページURL　http://www.vill.nakagusuku.okinawa.jp/

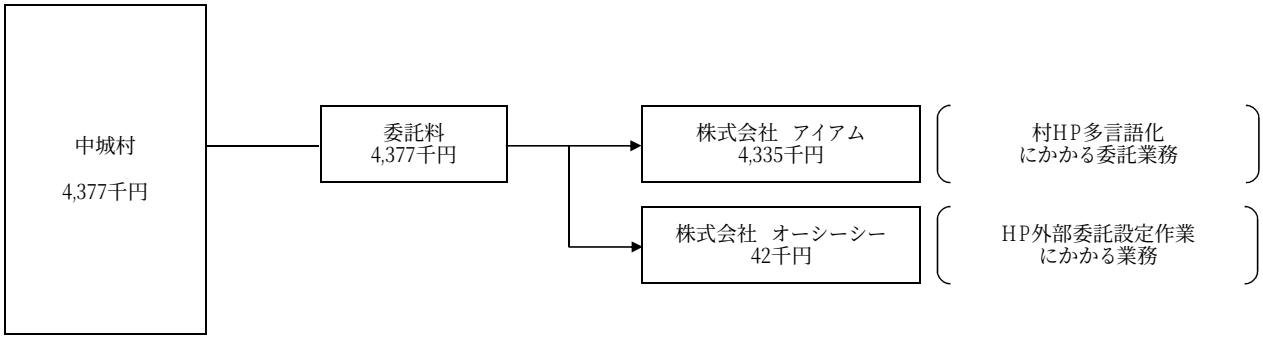
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・各言語の自動翻訳を行っているが、誤変換が起こって読みにくい記事となっている。	・固有名詞（人名、土地名）の誤翻訳を無くして読みやすい記事にする。

今後の取り組み方針

・村の歴史や伝統文化に関するページ等、自動翻訳に加えて、人を介した翻訳を行い、より伝わる記事を発信することで本村に興味を持つ人を増やす。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,377	4,377	3,501	876	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業は、プロポーザルを実施し、総合評価方式により選定したため、妥当であると考える。 ・経費の支出については、事業目的に合致しており、適正であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑦	海外移住者子弟研修生受入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－(1)－ア 国際ネットワークの形成と多様な交流の推進
担当部課名	企画課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－7

事業内容	南米諸国等に移住した中城村出身者の子弟を研修生として受け入れ、日本語研修、企業研修、伝統文化･芸能の習得を通して、ウチナーンチュとしてのアイデンティティの形成を図り、各国村人会等のリーダとして社会の発展に寄与する人材を育成するとともに、移住国との友好親善に努め観光振興への展開として、南米諸国等と沖縄の観光の架け橋になってもらうことを目的として実施する。
実施方法	■直接実施　■委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,535				
	(b)予算現額	3,535				
	(c)増減額(b-a)					
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	3,535				
B．執行済額		3,238				
うち交付金充当額		2,590				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		91.6%				
予算の状況の説明		･不要額297千円は、滞在日数の減による滞在費の減や、印刷製本費や委託料の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
受入研修生数	目　標	（　年間3名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3名			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：･受入研修生はブラジル連邦共和国、アルゼンチン共和国、ペルー共和国からそれぞれ一人ずつ受け入れた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
受入研修生数	目　標	（　）	（3名）	（　）	（　）	（　）
	実　績		3名			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：･受入研修生はブラジル連邦共和国、アルゼンチン共和国、ペルー共和国からそれぞれ一人ずつ計3名受け入れ、目標を達成した。

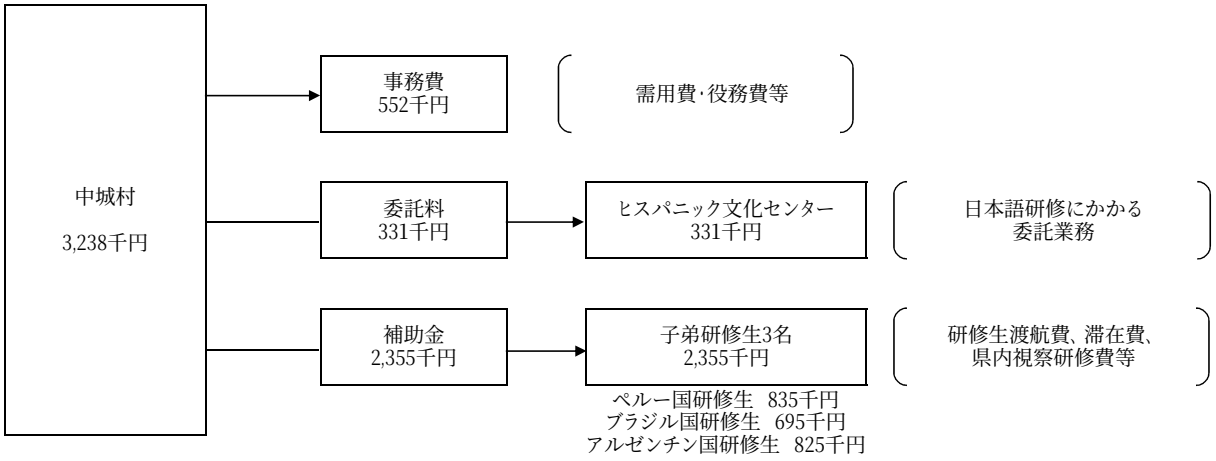
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・受入家庭が村外にいる場合、研修生のルーツである「中城村」との交流が図られにくい。 ・研修生が帰国した後の取り組み状況の把握が難しい。 ・子弟が日系3世4世となっている時代で、県内に住む受入家庭の確保が厳しい。 ・移民の歴史や現状の認識不足 ・ウチナーンチュとしてのアイデンティティの形成についての研修が不足している。	・村の行事への参加で村民との交流を促進することが必要である。 ・帰国後の活動状況の報告を義務付ける。 ・身内や親戚ではない研修生を受け入れてくれる家庭は少ないので、受入家庭が確保できない場合は、中城村より諸外国へ研修生等を派遣することなどの検討が必要である。 ・研修生による移民の現状や歴史のプレゼンテーションが必要である。 ・現在の研修科目に加えて、アイデンティティを考える講座を追加する。

今後の取り組み方針

・今後は、地元の自治会や団体と協力して、村や地域の開催する行事に研修生を積極的に参加させ、村民との交流を図り、帰国後は研修生が積極的に沖縄に関するイベントやウチナーンチュ大会などの各種大会へ参加するよう呼びかけ、毎年活動状況を村へ報告させる。
・また、本事業と並行して、村民の移民の歴史に対する教養や国際的感覚を養うために、村の学生や社会人から研修生を公募し、中城村から諸外国へ研修生を派遣する事業も実施していきたい。併せて村の移民に対する認識を向上させるため、修了式等において研修生に各国の村人会等の現状や移民の歴史を紹介させ、村民に知ってもらうとともに、研修生自身にも自分の祖先の歴史を深く学ばせる。
・さらに、WYUA等の団体と協力してワークショップ等の講座に研修生を参加させ自己のアイデンティティについて考える機会を与え、沖縄コミュニティーのリーダー育成へとつなげる。今までブラジル連邦共和国、アルゼンチン共和国、ペルー共和国の3ヵ国から研修生を受入れてきたが、移民者が多く、比較的日本語や沖縄コミュニティーが希薄化しているアメリカ合衆国ハワイからも研修生を受入れ、交流を深めていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,238	3,238	2,590	648	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は仕様書に基づいて見積書を提出させ、最低価格の企業を選定しており、妥当であったと考えている。 ・要綱で定めのある事業目的に即した費用を交付しており、要綱外の費用については受益者負担のため、受益者との負担関係は妥当と考える。 ・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑨	クラブハウス施設整備事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－（２）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成２５～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（２）

事業内容

スポーツコンベンションの推進を図る目的で当交付金の平成25年度事業として整備を行っている吉の浦公園周辺施設の一つであるサッカー場に、キャンプ誘致の受入基盤を更に強化整備するため、ミーティングルームやレフリールーム、更衣室等の設備を兼ね備えた「クラブハウス」を整備する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	11,144				
	(b)予算現額	10,395				
	(c)増減額(b-a)	▲ 749				
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	10,395				
B．執行済額		10,395				
うち交付金充当額		8,316				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		・基本計画、実施設計委託業務において入札残が発生したため749千円減額補正した。 ・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
クラブハウス施設の基本計画、実施設計の実施	目　標	（基本計画、実施設計の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	基本計画、実施設計の実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	・当初計画通り、年度内にクラブハウス施設の基本計画、実施設計の策定を実施した。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
クラブハウス施設の基本計画、実施設計の実施	目　標	（　-　）	（基本計画、実施設計の策定）	（　）	（　）	（　-　）
	実　績		基本計画、実施設計の策定			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	・平成26年度建設工事、供用開始に向け予定通り平成25年度で基本計画、実施設計を完了した。					

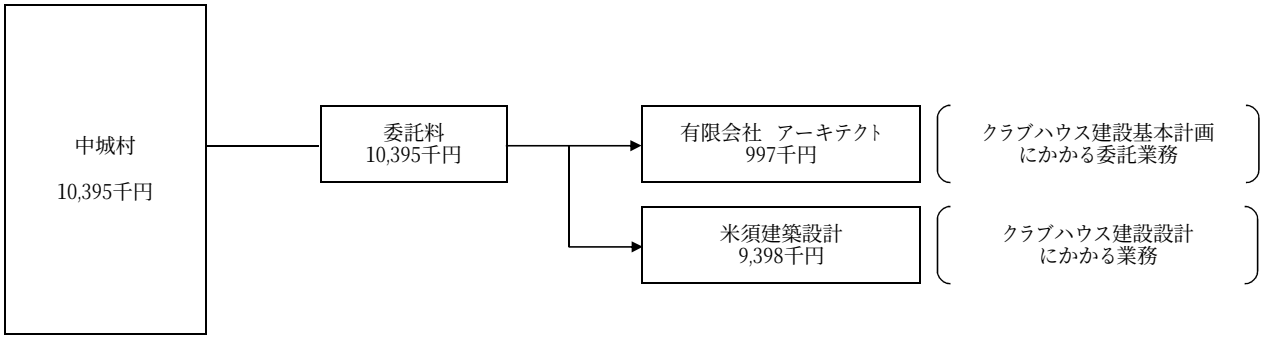
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・サッカーキャンプ等の受入基盤を更に強化することを目的として、クラブハウス施設の整備を予定しており、今年度は計画通り基本計画・実施設計の策定を実施した。平成25年度実施分については特に問題はない。	・計画通り実施でき、特に問題はない。平成26年度の建設工事完了後はいかに多くの利用者にクラブハウスを利用して頂くかが課題である。

今後の取り組み方針

・プロのサッカーチームのキャンプ誘致や、その他スポーツ団体等合宿誘致、県、村内スポーツ関連、吉の浦公園施設開催事業と関連させ、クラブハウス施設を多くの人に利用して頂く取り組みを検証する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,395	10,395	8,316	2,079	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、指名競争入札により実績、知識等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考えている。 ・費目・使途については事業目的達成の観点からも必要であり、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	中城の歴史と文化を学ぶプロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	「郷土の歴史･文化についての学習」を充実させるため、小中学校の教材等を編纂する。今年度は小学生向け教材の企画検討、執筆者編集委員会の設置等を行う。平成25年度末に小学生向け教材の納品を行い、平成26年度末に中学生向けの教材の納品を行う予定である。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,983	9,838			
	(b)予算現額	1,983	9,838			
	(c)増減額(b-a)					
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	1,983	9,838			
B. 執行済額		1,983	9,838			
うち交付金充当額		1,586	7,870			
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		･計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
読み物教材の編集	目　標	(-)	(教材の作成、納品)	( )	( )
	実　績	幼小学校教材作成に向けた各種会議の実施	物語の執筆、挿絵の作成、校正、納品		
絵本教材の編集	目　標	(-)	(絵本教材の編集、納品)	( )	( )
	実　績	-	物語の執筆、挿絵･ｲﾗｽﾄの作成、出稿、校正、納品		
3年～6年生教材の編集	目　標	(-)	(教材の作成、納品)	( )	( )
	実　績	-	資料収集、執筆、原稿整理、出稿、校正、納品		
脚本の編集	目　標	(-)	(脚本の編集、納品)	( )	( )
	実　績	-	資料収集、執筆、原稿整理、出稿、校正、納品		
教育課程特例校の研究	目　標	(-)	(教育課程特例校に関する研究、関連資料の作成)	( )	( )
	実　績	-	教育課程特例校に関する調査、特例校の申請、指定		
中学校教材の企画委員会･編集委員会の立ち上げ	目　標	(-)	(企画委員会･編集委員会の立ち上げ)	( )	( )
	実　績	-	企画･編集委員会の立ち上げ、たたき台の検討		
達成状況説明	･平成25年度は、絵本、紙芝居、小学校3年～6年生教材、脚本の編集･印刷･納品を年度末までに行った。教育課程特例校(小学校)についても調査研究を行い、25年度中に文部科学省より指定を受けた。中学校教材については、教材の基盤となる編集方針や方向性を策定するために、企画会議と編集会議を行い、教材プロットの作成を行った。				

成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
	読み物教材の出版	目　標	（　　）	（　－　）	（読み物教材の編集、納品）	（　　）	（　－　）
		実　績		読み物教材プロットの作成	読み物教材の編集、納品		
	絵本教材の出版	目　標	（　　）	（　－　）	（絵本教材の編集、納品）	（　　）	（　　）
		実　績		絵本教材プロットの作成	絵本教材の編集、納品		
	3年～6年生教材の出版	目　標	（　　）	（　－　）	（3年～6年生教材の編集、納品）	（　　）	（　－　）
		実　績		3年～6年生教材プロットの作成	3年～6年生教材の編集、納品		
	脚本の出版	目　標	（　　）	（　－　）	（脚本の編集、納品）	（　　）	（　　）
		実　績		－	脚本の編集、納品		
	教育課程特例校の申請	目　標	（　　）	（　－　）	（教育課程特例校研究、申請、指定）	（　　）	（　－　）
		実　績		－	教育課程特例校研究、申請、指定		
	中学校教材の企画委員会、編集委員会を実施し教材プロットを作成する	目　標	（　　）	（　－　）	（企画委員会3回 編集委員会3回 教材プロット作成）	（　　）	（　　）
		実　績		－	企画委員会3回、編集委員会3回、教材プロット作成		
	進捗状況説明	・読み物・絵本教材、小学校教材、脚本が完成、納品した。教育課程特例校（小学校）については、申請し指定を受けた。中学校については、教材の企画委員会、編集委員会を立ち上げ、たたき台の検討を行った。計画どおりの進捗状況である。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・中学校教材の編集委員が、教職員の人事異動や校内人事等で継続できない可能性があり、25年度作成した教材プロットの引継ぎが必要である。また編集委員が替わった場合のプロット変更への対応等に留意する。 ・教育課程特例校申請（中学校）について詳細な検討が必要であり、県教育庁担当課との事前調整を綿密に行う。	・中学校の教材については趣旨・要項等の確認を行いながら、プロットに基づき教材を作成する。また、検証のための授業実践を行い教材の見直しや改善を図っていく。 ・教育課程特例校の申請については、授業時間数の調整などが必要となるため、中学校との事前調整を綿密に行う必要がある。

今後の取り組み方針

・当初計画の通り、中学校教材を平成26年度末までに編集・印刷・製本を行う。
・教育課程特例校（中学校）の申請を行う際、学校側及び県教育庁担当課との調整を綿密に行い26年度末までに指定を受ける。
・26年度人事異動や校内人事等で新規に加わった編集委員に対しては、26年度スタート時の企画委員会・編集委員会にて、25年度作成した教材プロットの確認を行う。小学校については、25年度にて作成した教材をどのように授業へ展開していくかを各学年ごとに研究会を開催し、人事異動や校内人事等があった場合にも同じような授業展開ができるよう対応していく。また研修会において指導案の作成も検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,838	9,838	7,870	1,968	

中城村 9,838千円 → 委託料 9,838千円 → 合資会社 沖縄時事出版 9,838千円

（中城の歴史と文化を学ぶプロジェクトにかかる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、小・中学校の教育課程、カリキュラムを踏まえたうえでの提案ができる実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について事業報告書で確認したが適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容	児童生徒が、コンピューター等の情報手段に慣れ親しみ適切に活用できるよう、情報支援員の配置やコンピュータの設置等により環境を整備する。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算の状況	(a)当初予算額	24,734	－	34,242		
	(b)予算現額	39,361	－	40,665		
	(c)増減額(b-a)	14,627	－	6,423		
	(d)繰越額	－	37,905			
	A. 計(b+d)	39,361	37,905	40,665		
B. 執行済額		447	37,905	35,992		
うち交付金充当額		357	25,677	28.793		
次年度繰越額		25,677				
執行率（%）(B/A)		1.1%	100.0%	88.5%		

予算の状況の説明

・学校ICT環境を充実させるため、パソコン設置数増による備品購入費を6,423千円増額補正した。
・不要額は備品購入費の入札残等によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
パソコン設置学校数	目　標	（小学校1校）	（小学校2校）	（　）	（　）
	実　績	小学校1校	小学校2校		
情報教育対応補助者	目　標	（小中学校1人）	（小中学校1人）	（　）	（　）
	実　績	小中学校1人	小中学校1人		
	目　標	（　）	（-）	（　）	（　）
	実　績		-		

達成状況説明

・中城小学校及び津覇小学校へパソコン設置を行った。
・また、情報教育対応補助者を１人配置し小中学校への情報手段への指導を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
パソコン設置数(中城小)	目　標	（-）	（-）	（60台）	（　）	（-）
	実　績		-	60台		
パソコン設置数(津覇小)	目　標	（-）	（-）	（60台）	（　）	（-）
	実　績		-	60台		
パソコン設置数(中城南小)新世代教室、パソコン教室	目　標	（-）	（80台）	（-）	（　）	（-）
	実　績		80台	-		
情報教育対応補助者配置数	目　標	（-）	（1人）	（1人）	（　）	（-）
	実　績		1人	1人		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・平成25年度において村内小学校2校の情報機器環境整備を実施し、積極的にICTを活用した授業を行い、より魅力的かつ分かり易い授業環境を整えることができた。
・また、情報教育対応補助者についても、今後も整備した情報環境をより効果的に活用するために継続していく。

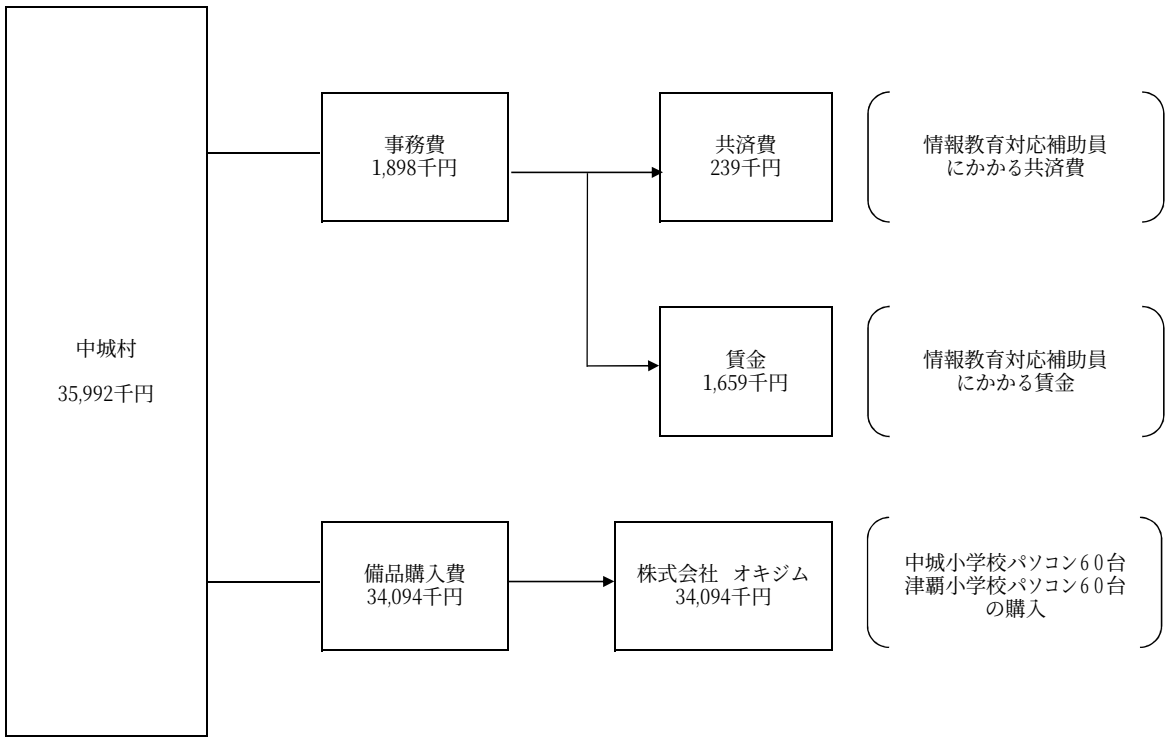
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・整備した情報機器を効果的に日常授業に活用し、学力向上に繋がるような学習指導を検討していく必要がある。	・整備した情報機器の活用方法を明らかにし、情報化社会に沿った情報機器の活用手引き書等を作成し、手引き書の内容を活用した学習指導が可能か検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・平成26年度は村内の中学校1校の情報機器環境構築を実施予定となっており、引き続き情報機器環境の構築、情報教育対応補助者を配置しきめ細やかな指導を行うとともに、情報機器環境整備のPDCAサイクルを実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
35,992	35,992	28,793	7,199	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は指名審査会で選定された業者から指名競争入札で実施した。情報機器環境整備の実績等があり妥当である。 ・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について事業報告書で確認したが適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-③	きめ細かな児童生徒支援事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－(3)－ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(1)

事業内容

特別に支援を要する児童生徒や学習が遅れ気味の児童生徒について、個に応じたきめ細かな支援を行うため、特別教育支援員や学習支援員を各学校に配置する。また、家庭の理由で不登校になる児童生徒が多いため、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを配置し、児童生徒と保護者に対して、精神的にきめ細かく支援する体制を整備する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,917	22,190			
	(b)予算現額	3,278	21,525			
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,639	▲ 665			
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	3,278	21,525			
B. 執行済額		3,278	21,255			
うち交付金充当額		2,622	17,004			
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.7%			

予算の状況の説明

・当初計画より心理士及び特別支援員の採用が遅れたことにより665千円減額補正した。
・不要額は特別支援員の勤務日数に増減がでたことによるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した。

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
園児、児童、生徒指導支援者配置数(幼稚園２人、小学校：６人、中学校：２人、教育相談員：２人、スクールソーシャルワーカー：１人)	目　標	小学校：４人 中学校：２人 教育相談室：２人	幼稚園：２人 小学校：６人 中学校：２人 教育相談員：２人 スクールソーシャルワーカー：１人		
	実　績	小学校：４人 中学校：２人 教育相談室：２人	幼稚園：２人 小学校：６人 中学校：２人 教育相談員：２人 スクールソーシャルワーカー：１人		
	目　標				
	実　績				

達成状況説明

・特別に支援を要する児童生徒や不登校になりがちな児童生徒の、個に応じたきめ細やかな支援を行った。
・具体的な活動内容としては、教育相談員やスクールソーシャルワーカーによる不登校生徒の心のケアを保護者を交えて実施。
・また、学習に遅れがでないよう、授業での寄り添い指導の実地した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(３３年度)
不登校児童生徒数	目　標	１２人	６人	０人		０人
	実　績		６人	４人		
	目　標					
	実　績					

進捗状況説明

・平成25年度成果目標では不登校児童生徒数０人を目標としていたが、不登校人数H２５年度４人となり目標を下回る結果となった。その要因としては、不登校生徒に対してのケアを継続的に教育相談員及びスクールソーシャルワーカが保護者との連携を図っているが、不登校の要因が学校環境での要因だけではなく、家庭問題にあることなど解決が困難であったためである。
　不登校人数(H２４年度　６人　→　H２５年度　４人)

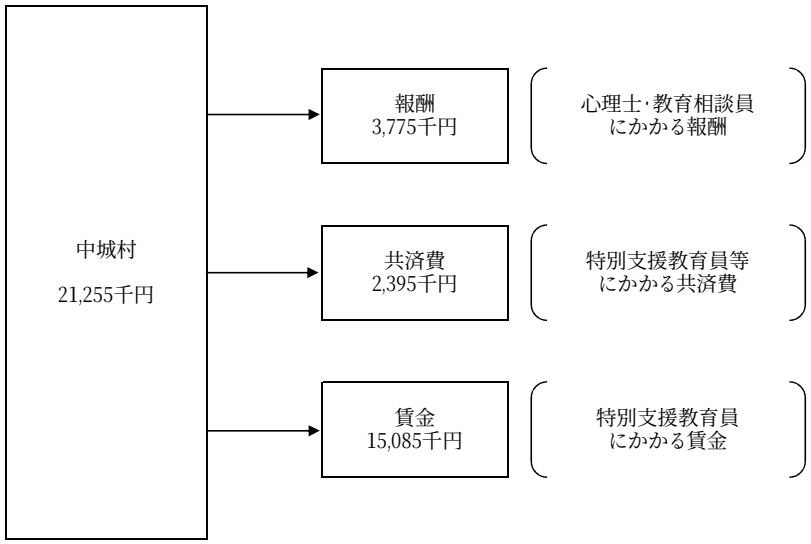
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・不登校児童数については、毎年減少傾向にある。 ・今後は不登校になりそうな児童を把握しケアしていく取り組みが必要である。	・特別支援教育の資質向上のため研修会等を行っていく。 ・不登校に繋がっていくものであるとの認識の元、児童の様子観察と保護者等との早期・継続的な相談に取り組む。

今後の取り組み方針

・引き続き、教育相談員及び特別支援教育員の支援により、不登校児童の減少へと繋げ安全な教育環境の提供を図る。
・また、ソーシャルワーカーと特別支援員と保護者との関わり方を充実させ、生徒個別及び学級手段への支援のあり方について学校側へ助言できるように取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
21,255	21,255	17,004	4,251	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・報酬・賃金について、村の規則に基づき支出を行っているため、適正であった。 ・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-④	国際理解人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	学校の外国語活動及び国際教育を充実させるために英語指導の補助員を配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,336	4,080			
	(b)予算現額	1,032	4,117			
	(c)増減額(b-a)	▲ 304	37			
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	1,032	4,117			
B. 執行済額		1,032	4,117			
うち交付金充当額		825	3,293			
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・事業計画どおり執行を行った。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
英語指導員配置数(小学校)	目　標	(　1人　)	(　1人　)	(　　)	(　　)
	実　績	1人	1人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：・児童生徒が目標を持ちながら意欲的に学習に取り組めるよう、外国指導員を配置した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
英語指導員配置数(小学校)	目　標	(　1人　)	(　1人　)	(　1人　)	(　　)	(　2人　)
	実　績		1人	1人		
英検取得者数	目　標	(　15人　)	(　27人　)	(　40人　)	(　　)	(　100人　)
	実　績		27人	75人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：・児童生徒が個に応じた目標を持ち意欲的に学習に取り組んだ結果、英検取得者数が増となり平成２５年度目標値の40人を大きく上回った。
中学生の英検取得者数　(H24　27人　→　H25年度　　75　人実績)

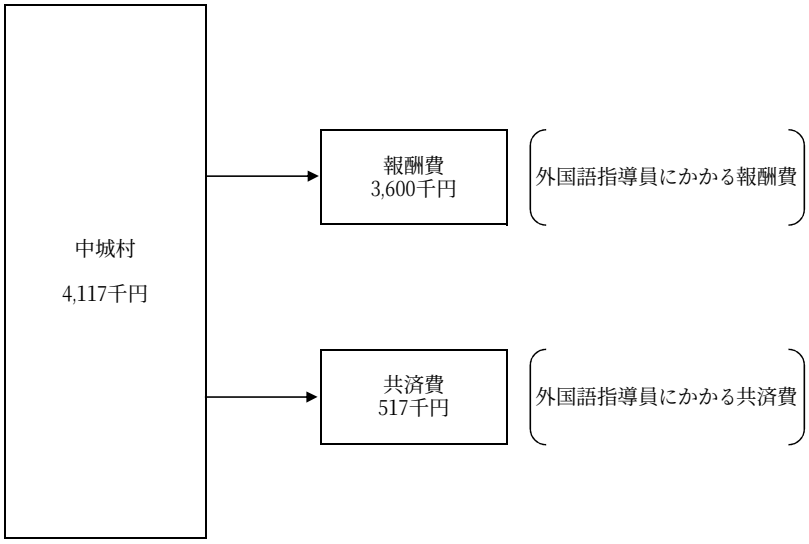
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成25年度の英検取得者数は、目標としていた40人を大きく上回ることができた。 引き続き意欲的に学習に取り組めるよう環境づくりに取り組む。	・学年全員で受験することの意義は、みんなで目標に向かって挑戦することで、できるだけ多くの生徒に成功体験を持たせることができることあると考える。また、身近でがんばっている仲間の姿に刺激を受け、自分もがんばろうとするという生徒の学習態度の向上に繋がるような指導方針を学校と指導員が協力して構築する。

今後の取り組み方針

・引き続き、学習意欲が高まる環境づくりに取り組みながら、生徒自身が楽しく学べ、継続でき、目標を達成できたときの楽しみを感じ、高い目標を達成できるような学習環境を作れるように外国指導員及び学校側とで指導方法の改善策を模索し実行していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,117	4,117	3,293	824	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・報酬について、村の規則に基づき支出を行っているため、適正であった。 ・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-⑤	ございまる学力パワーアップ事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	生徒の学習意欲を引き出し、確かな学力を身につけるためには、その日の学びの定着や繰り返し学習が必要である。そのために、「学習定着のための機会」の提供として土曜講座等を開催する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	11,088				
	(b)予算現額	10,332				
	(c)増減額(b-a)	▲ 756				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	10,332				
B. 執行済額		10,332				
うち交付金充当額		8,265				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		・委託料の入札残が発生したため756千円減額補正した。 ・計画的な予算執行に努め、事業を遂行した。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
実施要綱案の作成と連絡調整会の実施	目　標	実施要綱案の作成・連絡調整会の実施	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施要綱案を作成・連絡調整会の実施			
定期テスト前講座の実施	目　標	定期テスト前講座の実施	（　）	（　）	（　）
	実　績	定期テスト前講座4回実施			
夏期講座の実施	目　標	夏期講座の実施	（　）	（　）	（　）
	実　績	1年生36名、2年生14名受講			
意欲向上のための生徒向け講演会の実施	目　標	生徒向け講演会の実施	（　）	（　）	（　）
	実　績	受講者向けに開講時に実施			
土曜講座の実施	目　標	土曜講座の実施	（　）	（　）	（　）
	実　績	21回実施、1年生33名・2年生17名受講			
達成状況説明	・定期テスト前講座は中学1年生が平均25名、2年生が平均14名受講した。夏期講座については、1年生36名、2年生14名が受講した。土曜講座は1年生33名、2年生17名が受講した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	受講生の事前テスト・事後テストの平均10点の向上	目標	( )	事前テスト・事後テストの平均10点の向上	( )	( )	(―)
		実績		1年生数学56%・英語35%、2年生数学52%・英語62%が向上した			
	県到達調査の数学・英語の平均点を上回る	目標	( )	到達調査の数学・英語の平均を上回る	( )	( )	( )
		実績		受講者平均は県到達度調査の平均点を上回った			
	進捗状況説明	・本事業の目的でもある基礎学力の向上を図るため、基礎基本事項が身についていない生徒や経済的な理由で学習塾等へ通えない生徒を対象に講座を実施した。基礎基本事項が身についていない生徒を対象としていたため、小学校の算数から指導を行い、英語についてもアルファベットを書くところから始めた。講座の初日にレベルチェックテストを実施し、弱点科目の克服やつまずきやすい問題などを繰り返し指導することにより、生徒も意欲的になり勉強ができる喜びや達成感を持つことができ、やればできるとの自信を持つようになった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・土曜講座や夏期講座の出席が、部活動との兼ね合いで皆出席する生徒が少なかった。 ・学力の基礎となる小学校での勉強の積み残しがある生徒がいた。	・出席率の向上を図るため、講座開催曜日についての検討が必要である。 ・小学校での積み残しが多くみられる生徒の学習意欲、学力向上を図るための対策を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・小学校での積み残しが多く見られた生徒がいたため小学校との連携も必要であると考えられ、中学1年生の勉強でギャップがでないような支援体制の構築を検討する。
・出席率の向上も課題となっているため、平日に講座を開講することも検討し学校との調整を行う。
・次年度も継続して事業の実施を行う事により、生徒の成績が向上することはもとより、学習意欲の向上にも繋がっていくと考えられることから、平成25年度に受講した生徒が、次年度も引き続き受講できる体制づくりが必要であり、また、多くの生徒が継続して受講することができるように、中学校との調整が必要である。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,332	10,332	8,265	2,067	

中城村 10,332千円 → 委託料 10,332千円 → 一般社団法人教育振興会 10,332千円 (ごさまる学力パワーアップ事業にかかる委託業務)

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、中学校の教育課程、カリキュラムを踏まえたうえでの提案ができる実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、事業報告書で確認したが適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-⑥	児童館･子育て支援センター強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(2)－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	福祉課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	子育ての不安を解消し、子供たちへの虐待を防ぐため、相談体制の強化を図るとともに、地域のボランティア育成を強化する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	8,770	17,391			
	(b)予算現額	8,607	16,901			
	(c)増減額(b-a)	▲ 163	▲ 490			
	(d)繰越額	―				
	A. 計(b+d)	8,607	16,901			
B. 執行済額		8,607	16,754			
うち交付金充当額		6,885	13,403			
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	99.1%			
予算の状況の説明		･事業内容を精査しコストの削減を図ることができたため490千円減額となったが、計画的な予算執行に努め業務を遂行した。 ･不要額147千円については事業完了後の精算の際に減額となったものであり、当初予定していた計画をすべて実施することができた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
指導員、保育士の配置(児童館:3人、子育て支援センター2人)	目　標	児童館:3人(子育て支援センター:2人)	児童館:3人(子育て支援センター:2人)	(　)	(　)
	実　績	児童館:3人(子育て支援センター:2人)	児童館:3人(子育て支援センター:2人)		
地域ボランティアによるイベントの開催回数(年間10回)	目　標	(　-　)	(　10回　)	(　)	(　)
	実　績	-	27回		

達成状況説明：
･児童館･支援センターに指導員を配置し、育児に励む保護者が抱える不安を解消するため、情報交換や相談体制の強化を図った。
･また、地域ボランティによるイベントを開催する事で地域との繋がりや、自主性を養うことができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

,		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
地域ボランティアによるイベント開催実施率(活動目標に対して)	目　標	(　-　)	(　-　)	(　70%以上　)	(　)	(　-　)
	実　績		-	270%		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：
地域ボランティが主体となって行ったイベント開催数は、目標値の70%を大幅に上回る事ができ、地域ボランティア育成の推進に努める事ができた。

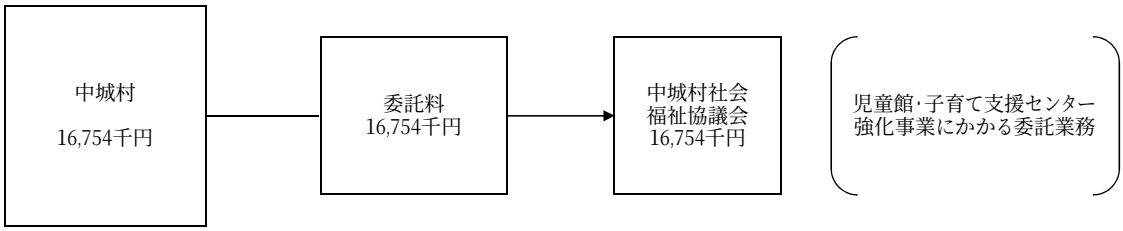
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・指導員・保育士を配置し、相談体制を強化することで、子育ての不安解消に努めた。今後は、ボランティアの育成とともに運営委託料の低コスト化が課題である。	・地域ボランティアの更なる育成を行い、主体性を高めることで、指導員・保育士の役割を担っていき、経費削減ができるような体制づくりが必要である。

今後の取り組み方針

・今後も引続き、地域ボランティアによる自主的なイベント開催を行い、質を高めるとともにリーダーの育成を行っていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,754	16,754	13,403	3,351	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、これまでの実績を踏まえ、自治令167条の2第1項第6号により随意契約とし、妥当であると考えている。 ・経費の支出についても、事業目的に合致しており、実績報告により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5	輪ギクの安定生産に向けた取組		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成２４～２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)
事業内容	輪ギクの作業効率向上および生産拡大を図るため、施肥作業と選別･調整作業の機械化を実施する。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	16,800	11,200			
	(b)予算現額	16,152	10,752			
	(c)増減額(b-a)	▲ 648	▲ 448			
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	16,152	10752			
B. 執行済額		16,152	10,752			
うち交付金充当額		12,921	8,601			
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明：･計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
選別機械の導入支援	目　標	(選別機械の導入支援)	(選別機械の導入支援)	( )	( )
	実　績	支援実施	支援実施		
	目　標	( )	( )	( )	( )
	実　績				

達成状況説明：･選別機械を利用し、収穫後の選別･調整･箱詰め作業時間の軽減を図る為の体制設備が図られた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
選別機械の導入支援件数	目　標	(-)	(3件)	(2件)	( )	(－)
	実　績		3件	2件		
	目　標	( )	( )	( )	( )	( )
	実　績					

進捗状況説明：･選別機2件の導入を支援しており、輪ギクの作業効率向上及び生産拡大を図るため、選別･調整作業に利用されている。

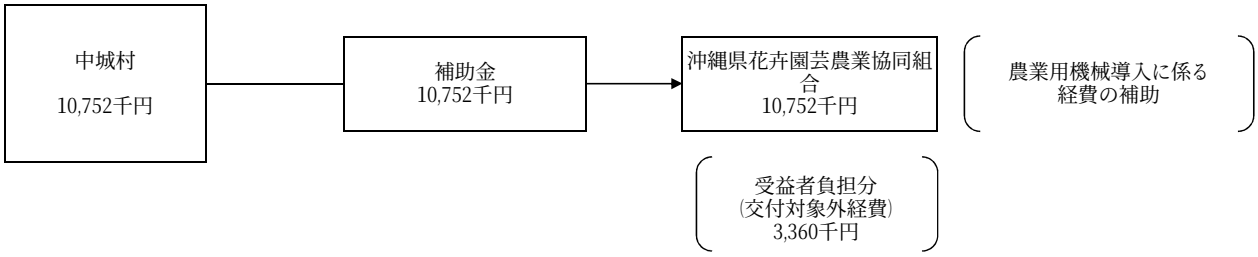
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成２４年度より継続導入している選別機械により、収穫後の労働時間短縮が図られてはいるが、干ばつ等の自然災害により生産量が減少しており生産拡大が図られていない。	・作物の生産拡大のために、選別機械により収穫後の労働時間短縮は図られているため、干ばつ被害等の自然災害対策の推進を行い、収穫まで安定的な生産量を確保する必要がある。

今後の取り組み方針

・平成26年度より、干ばつ対策として農業用水対策施設の設置補助を実施する予定であり、自然災害による被害の軽減に努め、作物の安定的な生産を目指し、収穫後は選別機械による労働時間短縮により生産拡大を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,112	10,752	8,601	2,151	3,360



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業主体であるJAおきなわは、事業実績があり、中城村内農業にも精通しているため妥当であったと考える。 ・実施主体が入札を行っており、予算規模は妥当だと考える。 ・要綱に基づき受益者も一定の費用を負担しており、受益者との負担関係は適正であると考える。 ・費目・使途については、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6	ごさまるエネルギープロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(5)－ア
					研究開発･交流の基盤づくり
担当部課名	企業立地・観光推進課	事業実施(予定)年度	平成２４～２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－11－(3)

事業内容	中城村に建設中の吉の浦火力発電所は、沖縄で初めて導入されるLNG(液化天然ガス)を燃料として発電を行う。液化された天然ガスが気化する際に発生する廃熱を中城村の地域振興と地域エネルギーシステムの確立に利用するため琉球大学及び中城村商工会の産官学連携により共同研究を行う。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,000	7,000			
	(b)予算現額	2,773	7,000			
	(c)増減額(b-a)	▲ 227				
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	2,773	7,000			
B. 執行済額		2,773	6,050			
うち交付金充当額		2,218	4,839			
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	86.4%			
予算の状況の説明		･執行率が86.4%となっている理由として、事業完了後の精算の際に減額となったものであり、当初予定していた計画をすべて実施することができた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
琉球大学･中城村連携推進協議会の発足	目　標	(　協議会発足　)	(　-　)	(　)	(　)
	実　績	協議会発足	-		
産学官による共同研究	目　標	(　共同研究　)	(　共同研究　)	(　)	(　)
	実　績	共同研究実施	共同研究実施		
冷凍粉砕及び製氷の実証調査	目　標	(　-　)	(　実証調査　)	(　)	(　)
	実　績	-	実証調査実施		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明
･小型の粉砕機を導入し、粉砕の実証調査を行った。粉砕を行う品目は沖縄特有の青果(島にんじんやゴーヤーなど)を中心に定め、粉砕後の舌触りや香りを調査した。
･製氷するにあたって、直接及び間接製氷の実験を行い、それぞれの特徴を比較した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
･琉球大学･中城村連携推進協議会の発足 ･冷熱エネルギー発生と発電ガス利用の仕組み及び制度調査 ･先行調査の整理と評価 ･先進事例調査	目　標	(　-　)	(　-　)	(　-　)	(　)	(　-　)
	実　績		産学官による再生可能エネルギーの共同研究の実施	-		
冷凍粉砕した製品を利用した商品開発の提案	目　標	(　-　)	(　-　)	(　サンプル試作　)	(　)	(　-　)
	実　績		-	サンプル試作(2つ)		
製氷実験の結果に基づく利用可能性の提案	目　標	(　-　)	(　-　)	(　製氷実験　)	(　)	(　-　)
	実　績		-	製氷実験実施		

進捗状況説明
･県内産の野菜、花、草木、サンゴ、魚介、豚など全部で40検体の粉砕を行い、すべてミクロンの微粉末に粉砕することができた。その中から、村の特産品である島にんじんを使って菓子パンのサンプルを試作した。また、プロジェクトの会員である地元企業の沖縄ホーメルが、ゴーヤーを使ってウィンナーのサンプルを試作することができた。
･製氷実験の結果、効率的には間接製氷の方が幾分良好であったが、製氷までの時間では圧倒的に直接製氷法が短時間で製氷することができる、ということが分かった。このような方法により製氷することができれば、冷熱の保管と移動が可能となりその用途は冷凍･冷蔵倉庫、ビルの空調、植物工場や陸上養殖などで利用することができると考えられ、製氷実験の実施により利用可能性の提案ができた。

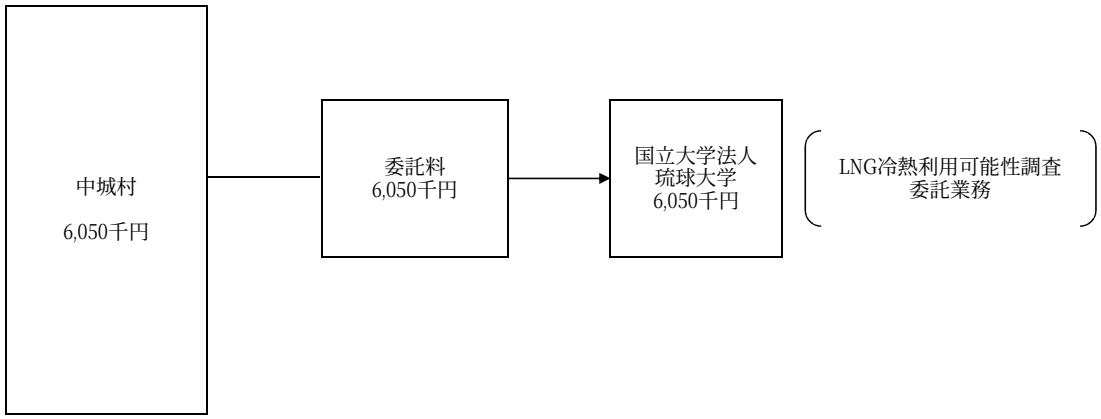
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・冷熱を利用するために必要な設備にはコストや維持費が高くなることが想定される。そのため、いかにコストを抑えるかが課題となる。 ・製氷実験の結果に基づき、冷熱の利用可能性を提案することができた。そのため、その可能性を冷凍倉庫や空調、植物工場や陸上養殖など事業化に向けた具体的な調査研究が必要と考える。 ・凍結粉砕した食品を使って商品サンプルを作成したが、製品化に向けては成分分析も行わなければならない。	・設備導入や維持管理にかかるコストを算出し、設備の簡素化・低コスト化や運転コストの低減化に向けた検証が必要である。 ・氷の利用方法に関して具体的な実験を行う必要があり、それを実施するために設備の整備の検討が必要である。 ・商品化に向けて、凍結粉砕物の成分と機能性の分析を行い、最適な粉砕条件や保存条件を調べる必要がある。

今後の取り組み方針

・製氷装置の基本構想を簡易模型を試作して製氷にかかるコストや仕組みを調査する。
・氷の利用に関して具体的な実証実験を展開する。
・凍結粉砕する有望な品目の成分と機能性の分析を行い、最適な粉砕条件、保存条件を調査する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,050	6,050	4,839	1,211	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・包括連携協定に基づき委託先を決めているので妥当と考える。 ・費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものへの支出で、支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-①	文化財悉皆調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成２５～２９年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容	5ヵ年計画で民俗調査専門員(嘱託員)による村内文化財の悉皆調査を行い文化財の位置や現況等を把握し、それを整理公開していくことで村民の文化財の保護意識高揚と活用を図っていく。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,760				
	(b)予算現額	3,183				
	(c)増減額(b-a)	423				
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	3,183				
B．執行済額		3,183				
うち交付金充当額		2,546				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		･当初は文化財嘱託員1名による村内文化財調査のみを予定していた。しかし、泊集落の文化財に関する資料が予想以上に早く収集することができたため、平成25年度以降に発刊を計画していた各字の文化財パンフレットのうち泊集落のパンフレットを発刊する事となり、予算の増額を行った。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
各集落での聞き取り調査の実施	目　標	(100名程度(18行政区))	(　)	(　)	(　)
	実　績	98名(5行政区･村外)			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：
･事業最終年度である平成29年度の目標数値を誤記しており、正しくは5行政区であり、目標どおり事業を実施することができた。
･平成25年度は、中城村に関わる各ノロ(神女)の調査や戦争体験者への戦前･戦中の中城の状況の調査、泊集落の調査等を重点的に行い、それらの成果を基に泊集落の戦前までの集落配置や文化財･旧所･名跡などの位置や内容説明を記載した文化財パンフレット シリーズ№1「中城村戦前の集落(泊集落)」を1000部を発刊した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(29年度)
調査概要の作成	目　標	(　)	100名程度(18行政区)	(　)	(　)	(400名 18行政区)
	実　績		98名(5行政区･村外)			
【参考指標】	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：
･聞き取り調査は地域住民等の協力もあり順調に実施することができた。また、同事業で作成した「中城村戦前の集落(泊集落)」を泊集落の各世帯に配付したところ反響が大きく、同集落への追加配付の要望や他地域からも問合せがあるなど、地域の文化財愛護の意識高揚や郷土愛の醸成等を図ることができた。

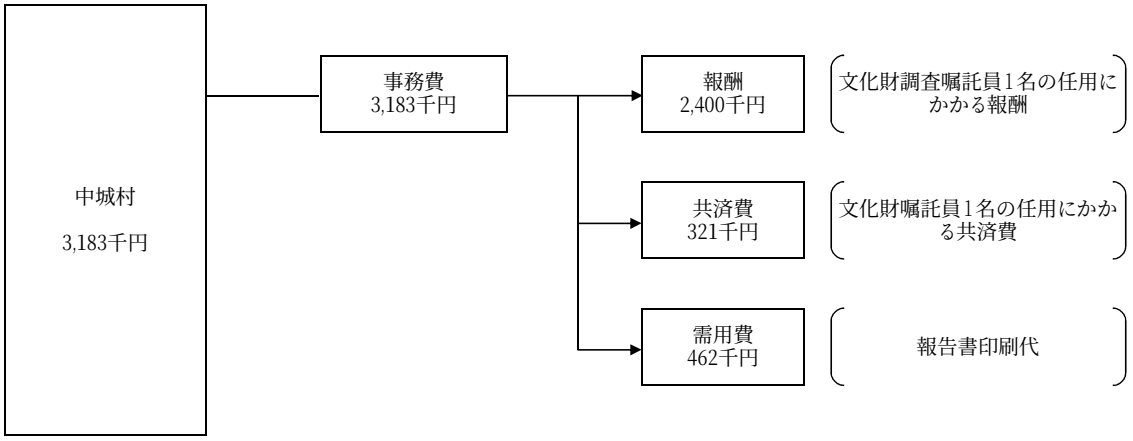
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・当該事業では、目的を達成するために、古くからの伝承や戦前までの村内の状況を記憶している老人達からしか聞けないため、情報提供者の年齢を考慮しできるだけ早く、かつできるだけ多人数から聞き取りを行わねばならない。しかし、各集落での行事はその実施時期の大半が重なってしまうため事業開の初年度である平成25年度の調査では、嘱託員1名での調査では限界が有ることが判明した。	・文化財調査嘱託員の増員を行って、調査体制を強化していく必要がある。

今後の取り組み方針

・文化財調査嘱託員の増員を行うとともに、各集落で補助的な調査を行うボランティ調査員を募集・育成していく予定である。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,183	3,183	2,546	637	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・文化財嘱託員には大学で民俗を専攻し、過去に同様な調査を行ってきた経験者を採用して調査を実施した。印刷製本業務の契約については、過去に文化財出版物の作成で実績のある3社から見積を徴し、最低価格を提示した業者と随意契約を締結した。以上のように、当該事業は適正に実施した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-②	村内文化財整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)
事業内容	村及び県指定文化財の保存及び活用を図るため修復やサインの設置を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	8,481				
	(b)予算現額	20,257				
	(c)増減額(b-a)	11,776				
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	20,257				
B．執行済額		20,257				
うち交付金充当額		16,205				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：・当初平成25年度は村指定文化財の「安里のテラ」・「新垣の石橋」の整備のみを考えていたが、年度途中で津覇集落から村指定有形民俗文化財「津覇の龕屋」の石積みが緩んできており危険な状態となっているため修復してほしいとの強い要望が出てきたため、「津覇の龕屋」の修復のための予算増額を行った。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
文化財測量	目　標	（文化財測量の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	文化財測量の実施(文化財　2箇所)			
文化財整備工事	目　標	（整備工事の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	整備工事の実施(文化財　3箇所)			

達成状況説明：・文化財測量については「新垣の石橋」「津覇の龕屋」の2箇所、文化財整備については「新垣の石橋」「津覇の龕屋」「安里のテラ」の3箇所を計画とおり実施、目標を達成した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
「新垣の石橋」の整備	目　標	(　-　)	(整備の実施)	(　)	(　)	(　-　)
	実　績		整備の実施			
「津覇の龕屋」の整備	目　標	(　-　)	(整備の実施)	(　)	(　)	(　-　)
	実　績		整備の実施実施			
「安里のテラ」の整備	目　標	(　-　)	(整備の実施)	(　)	(　)	(　-　)
	実　績		整備の実施			
【参考指標】	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：・文化財3箇所「新垣の石橋」「津覇の龕屋」「安里のテラ」について、計画通り整備を実施した。
・文化財を整備することにより、小中学生に地元の歴史や文化を学ぶ機会を与え、村民の文化財愛護意識の高揚を図ることができた。

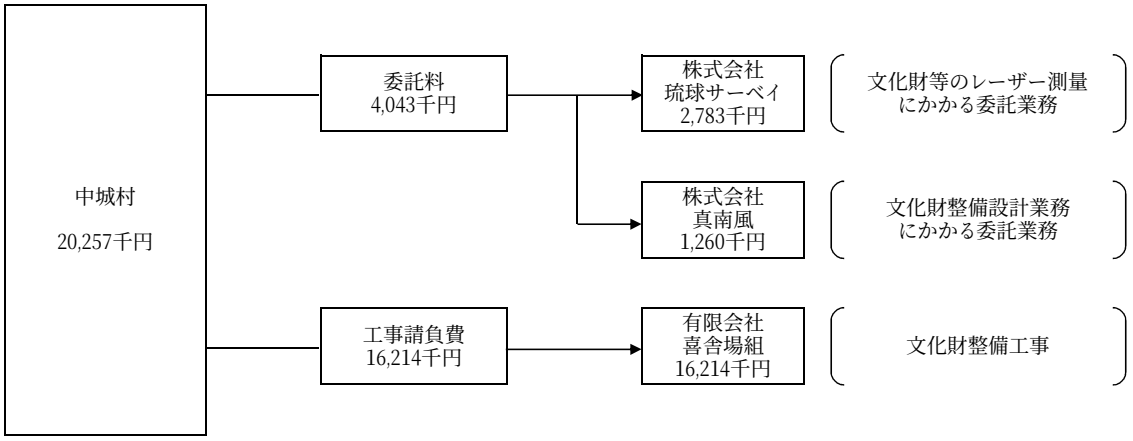
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・修復が必要な文化財は多々あるが、破損が著しく整備に緊急を要するもので、所在地域からの要望があった文化財を優先的に選定し、必要な箇所を整備した。平成25年度実施分について特に問題点はない。今後も継続的、計画的に文化財の整備を実施する必要がある。	・これら文化財の整備により、村民の文化財愛護意識の高揚を図ることができたが、さらなる向上のため、周知方法や文化財の活用方法について検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・今後はさらなる文化財愛護意識の高揚を図るため、村内外の方々や村内の小中学生への文化財の周知方法について、検討を行う。また、今後も引き続き文化財の整備を実施していく計画である。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
20,257	20,257	16,205	4,052	



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・文化財整備工事に関しては、指名競争入札の落札業者と契約を締結した。設計に関しては、文化財工事に経験のある業者3社から見積を徴し、最低価格を提示した業者と随意契約を行った。以上のように当該事業の実施に当たっては、適切な処理を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-③	古道ハンタ道保全活用基本計画作成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成２５～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容	本村では、ハンタ道(旧歴史の道)の道路整備を実施したが、道沿いの駐車場や便益施設、道路周辺文化財のサイン等の整備不足もあり、文化財や景観環境等周辺観光素材の十分な活用が出来ていない、今後の活用を図るために、追加整備や新たな活用方法等の基本計画を作成し、今後の文化･観光振興につなげていく。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,600				
	(b)予算現額	5,229				
	(c)増減額(b-a)	▲ 371				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	5,229				
B. 執行済額		5,229				
うち交付金充当額		4,183				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		･計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
前提条件の整理	目　標	（前提条件の整理）	（　）	（　）	（　）
	実　績	前提条件の整理			
環境条件の調査	目　標	（環境条件の調査）	（　）	（　）	（　）
	実　績	環境条件の調査			
道と各集落の関係性に対する調査	目　標	（道と各集落の関係性に対する調査）	（　）	（　）	（　）
	実　績	道と各集落の関係性に対する調査			
重点地区の検討	目　標	（重点地区の検討）	（　）	（　）	（　）
	実　績	重点地区の検討			
住民参加による道周辺環境整備の検討	目　標	（住民参加による道周辺環境整備の検討実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	未実施			
報告書の作成	目　標	（報告書の作成）	（　）	（　）	（　）
	実　績	未実施			
達成状況説明		･「住民参加による道周辺環境整備の検討」及び「報告書の作成」については平成26年度実施予定であったが、誤って25年度の目標と誤記しており、25年度事業については当初の目標とおり実施しているため、進捗率は１００％である。			

成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
	前提条件の整理	目　標	（　　）	（前提条件の整理）	（　　）	（　　）	（　-　）
		実　績		前提条件の整理			
	環境条件の調査	目　標	（　　）	（環境条件の調査）	（　　）	（　　）	（　-　）
		実　績		環境条件の調査			
	道と各集落の関係性に対する調査	目　標	（　　）	（道と各集落の関係性に対する調査）	（　　）	（　　）	（　-　）
		実　績		道と各集落の関係性に対する調査			
	重点地区の検討	目　標	（　　）	（重点地区の検討）	（　　）	（　　）	（　-　）
		実　績		重点地区の検討			
	住民参加による道周辺環境整備の検討	目　標	（　　）	（住民参加による道周辺環境整備の検討実施）	（　　）	（　　）	（　-　）
		実　績		未実施			
	報告書の作成	目　標	（　　）	（報告書の作成）	（　　）	（　　）	（　-　）
		実　績		0冊			
	進捗状況説明	・成果目標の内、「住民参加による道周辺環境整備の検討」及び「報告書の作成」については平成26年度実施予定であったが、誤って25年度の目標と誤記してしまった。25年度事業については当初の目標とおり実施しているため、進捗率は１００％である。平成26年度については、「住民参加による道周辺環境整備の検討」及び「報告書の作成」を実施予定である。					

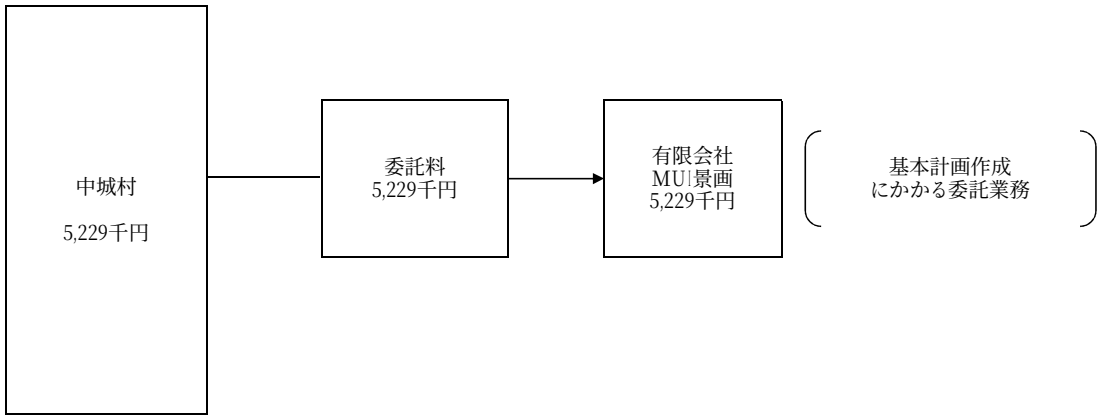
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・計画通り、本計画作成にあたり前提条件の整理等が実施できたため、今年度の実施について課題等はありません。	・本年度実施事業については目標達成しており、課題等はありません。しかしながら、本計画の作成や、作成後のハンタ道の保全・活用に当たっては、道が通過する地域住民の理解と協力、村内外への情報発信が必要である。

今後の取り組み方針

・今後は地域住民に対する説明や基本計画作成のためのワークショップを実施していく。また、基本計画策定後は、未整備文化財の整備、道の清掃管理など地域住民とともに積極的な道の保全・活用を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,229	5,229	4,183	1,046	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託に当たっては指名競争入札を実施し、その落札者と契約を締結した。当該業務は適正に実施した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-④	中城城跡詳細測量事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)
事業内容	中城村が平成27年度に建設を計画している「(仮称)護佐丸歴史資料図書館」に展示する中城城跡詳細模型を作成したり、中城村役場や中城城跡共同管理協議会のホームページで公開する中城城跡の3D画像を作成するため中城城跡の城郭全体のレーザー測量を実施する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	33,000				
	(b)予算現額	32,760				
	(c)増減額(b-a)	▲ 240				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	32,760				
B. 執行済額		32,760				
うち交付金充当額		26,208				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
レーザー測量の実施	目　標	（城郭の測量実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	城郭の測量実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	・計画どおり、中城城跡の城郭全体のレーザー測量を実施した。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
レーザー測量の実施	目　標	（　）	（城郭の測量）	（　）	（　）	（ - ）
	実　績		城郭の測量			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（ - ）
	実　績					
進捗状況説明	・計画どおり、中城城跡の城郭全体のレーザー測量を実施し、平成28年供用開始予定の護佐丸歴史資料図書館に展示する中城城跡詳細模型や、村ホームページ等で公開予定の中城城跡の3D画像作成に活用することができる。					

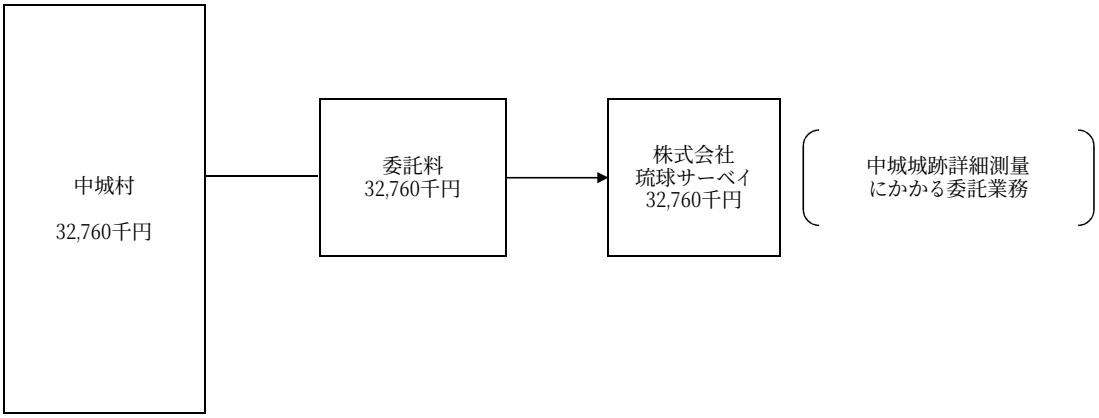
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・城郭全体のレーザー測量に当たっては、測量の前に城壁を隠していた樹木の伐採を実施したが、城郭の立地上の問題や当時の一般・公共の建築ラッシュ等の社会情勢により足場の確保や設置に時間がかかってしまいその間に亜熱草が伸びてしまったため、再度草の伐採を行わねばならず、契約期間の延長を行うことになった。	・不測の事態も考慮した余裕のある業務期間を設定する必要がある。

今後の取り組み方針

・今後同様な業務を行う場合、余裕のある業務期間を設定していく予定である。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
32,760	32,760	26,208	6,552	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託に当たっては指名競争入札を実施し、その落札者と契約を締結した。当該業務は適正に実施した。 ・費用・使途については、事業目的達成の観点から必要なものへの支出で、支出等に関する書類により確認、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	中城村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8	中城村景観形成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(6)－ア
					沖縄らしい風景づくり
担当部課名	都市建設課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)

事業内容

本村における、村土利用の基本方針に沿った、景観特性にあった、実現性の高い有効的村土利用と景観形成を推進するため、景観計画を策定、景観条例を制定する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,916				
	(b)予算現額	2,741				
	(c)増減額(b-a)	▲ 175				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	2,741				
B. 執行済額		2,741				
うち交付金充当額		2,192				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

・不要額が175千円発生しているが、委託費の入札残によるものであり、計画的な予算執行に努め業務を遂行した。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
住民説明会の開催	目　標	（住民説明会の開催）	（　）	（　）	（　）
	実　績	住民説明会の実施(1回)			
景観アドバイザー制度の検討	目　標	（制度の検討）	（　）	（　）	（　）
	実　績	条例化の検討			
景観条例の制定	目　標	（条例制定）	（　）	（　）	（　）
	実　績	条例案策定			
特別緑地保全地区の検討	目　標	（地区の検討）	（　）	（　）	（　）
	実　績	地区の検討			

達成状況説明

・住民アンケートや策定委員会の資料を基に、議員説明会を実施した。
・景観計画案及び景観条例案を作成した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
景観計画の策定	目　標	（-）	（景観計画の策定）	（　）	（　）	（-）
	実　績		景観計画案の策定			
景観条例の制定	目　標	（-）	（景観条例の制定）	（　）	（　）	（-）
	実　績		景観条例案の制定			

進捗状況説明

・住民説明会や住民アンケートより、住民らが世界遺産周辺の乱開発を抑止する効果としての期待が多い事がわかった。
・目標としていた景観計画及び景観条例は案の策定まで達成できた。しかしながら、年度内での条例制定が間に合わず、26年度早期に実施予定である。

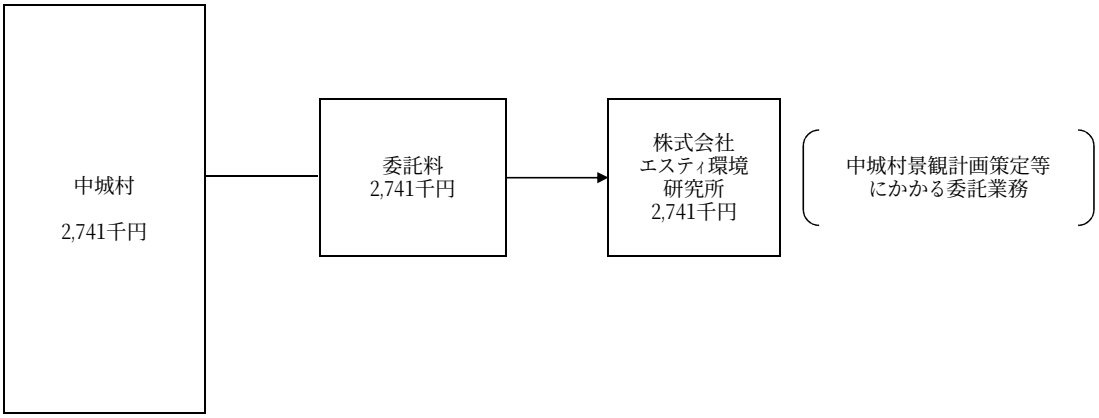
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・世界遺産周辺地域に関して、保全を求める要望がある。 ・目標には届かなかったものの、景観計画や、景観条例案を策定できたので、平成26年度早期の制定に向けて取り組んでいく。	・世界遺産周辺地域の景観保全に関して、更なる検討を実施していきたい。 ・景観計画及び、景観条例について周知・説明をすることにより、平成26年度早期の策定を図る。

今後の取り組み方針

景観計画や、景観条例に関する周知を再度実施し、平成26年度に正式に制定していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,741	2,741	2,192	549	



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	